

テーブルトークリプレイ

いゅうたま単発セッション



旅空の  
クエスト

沢渡様子



## はじめに

---

この本は、テーブルトークRPGのリプレイです。システムは「りゅうたま」。  
「テーブルトークRPG」及び「リプレイ」に関する説明は、ここでは省きます。

テーブルトークRPGわからないという方は.....申し訳ありませんが、  
ここを読んでみて、感覚的に理解できるというならばよし、  
わけがわからないという場合は、上記キーワードで検索でもかけてみてください。  
とりあえず前提として、今回は4人で遊んでおり、3人がそれぞれ自分の「キャラクター」を操  
作し、1人が物語の進行役を担っているという形です。

では、今回の旅へー。

ひとは一生に一度、胸おどる旅に出る。

「季節」と「竜」と「旅」のファンタジーRPG、りゅうたま。

この世界では誰でも、必ず長い旅に出ます。

旅で紡がれた「物語」は「竜人」の手によって「季節の竜」の栄養になるのです。

今回の旅人は3人。

ノーブルの少年、アユム。礼儀正しく優しい男の子。超のつく方向音痴。

ヒーラーの少女、アリッサ。アユムとは幼なじみで、面倒見の良い姉御肌。

そしてクラフトの青年、ティル・オイゲンシュピール。通称、大工のゲンさん。

彼らを見守るのは4姉妹の長姉、緑竜のメグです。



## OPENING

---

GM 皆さんは、一緒の町の出身？

アユム です。私の親父殿が柴田勝家似の地方領主ということで。

GM そこで、ちっちゃい頃から一緒に育ったと。了解ですー。

アリッサ 多分ここに姉ちゃんも入っていたんだろう、昔は。（アリッサには美人のお姉さんがいて、アユムはこのお姉さんに憧れているのだとか）

GM で、旅の動機ですが……？

アユム 元服の旅。伝統的な巡礼の旅で、88個のスタンプをもらう。（笑）

アリッサ 『はいお疲れ、次はここに行くんだよー』的な。

アユム で、通常は普通に回るんだけど、当家では逆回りをしなければならない。

アリッサ 逆打ちでね！

アユム 逆打ちで！

アリッサ で、アユムは希代の方向音痴で心配なので、私も自分の旅の消化のついでについていこうかなと。

GM ゲンさんの家族は、「あんたもそろそろ表に出なさい」みたいな。

アリッサ やだ俺は家の中に、家の中にー。（笑）

GM ここにいればアリッサの姉さんにちょっとは近いんだ、的な。

ゲンさんは、アリッサのお姉さんに告白して玉砕した過去があるのだそうです。

（本人曰く「失恋っていうな、あっしはただタイミングが悪いだけでやんす」）

で、そのショックで2年ほど引きこもり、現在に至るのだとか。

……なぜにキャラメイク時点で負け犬ロールをされますか（笑）

アリッサ 「あの子は結婚するんだからもう諦めなさい」「えっ!？」みたいな。「知らないそんなん知らない」「あんた引きこもっているからよ」（笑）

ゲン うるせえよ！ もう一度、俺はもう一度元服の旅に行きさえすればっ。

アユム ーじゃ、お姉ちゃんは、ボクの3歳上の、すごい立派な兄と結婚する。（笑）

GM それは絶対かなわない！

アリッサ きっと一緒に旅しちゃったんだよ。それがきっかけなんだよ。

アユム 文武両道ですっごい良くて、なぜか性格もまとも。ザ・パーフェクト。

アリッサ ザ・パーフェクト同士がくっつくんですね！

アユム 弱点があるとすれば、お人好しすぎるころ。

GM それすらもいいところじゃないですかー！

アリッサ ーじゃ、ボク、そのお兄ちゃんが好きだった。（笑）

アユム こいつはその2年間の間にチャンスを逃がした。（笑）

アリッサ それ面白い！ いいなあいいなあ！

ゲン 俺も負けていられんと元服の旅に出て、帰ってたら意気揚々と申し込むつもりでいる。

アユム じゃ、ボクは子どもなんで、大好きな兄貴と大好きなお姉さんが結婚するということで、でも結婚式には笑顔でいられそうにないから、旅に出る。

アリッサ 私もそれを理由をかこつけてついていくんだろな。いたくないもん。

ゲン 俺はそのお姉ちゃんの結婚の話を一瞬で記憶の外に、色々説明されているにもかかわらず耳に入らず。(笑)

アリッサ だからさっきから言ってたじゃない、人の話聞かないんだから。ちょっと。聞いている。聞いてんのあんた。

ゲン うるせえ、俺は旅に出るぜー！

アユム ーOK。どうだいこのうららかなさわやかな感受性。

アリッサ 幼なじみ3人組みやさぐれツアー。(笑)

か、開始前に負け犬ロール×3が成立しおったですよ。  
それにしても、実に楽しそうに自虐しておりますなー。

ゲン お気に入りのアイテムは何にしたんだい。

アユム お姉ちゃんから昔もらったハンカチ。(笑)

アリッサ うわーっ。

アユム 非常に可愛い子になってきているよな。

アリッサ じゃ、ボクはお兄ちゃんと昔お祭りに行った時にクジでもらったヘアバンド。

ゲン 昔お姉ちゃんに渡そうとした手ぬぐい。(笑)

……なんか約1名、お姉ちゃんorお兄ちゃんからのもらいものではなく、  
自分で作ったものを自分で持っている可哀想な人がいます……(笑)

ちなみにアユムは超方向音痴という設定。  
そしてアリッサは幼なじみとしてそんなアユムを放っておけないらしいです。

アユム 当家は15代目なんだけど、1人も脱落者がいないんだぜ。

アリッサ ああ。じゃ、あんたみたいに究極の方向音痴っていなかったんだね。

アユム 方向音痴って誰が？

アリッサ あんただよあんた。

アユム 何を言っているんだよー、ちゃんといつも着いているじゃないか、見つかった方向に。

アリッサ ー太陽がある方向は？

アユム 東。

アリッサ だよな。言っていたね。ーお日様沈んでいたら？

アユム お日様が沈んでいたら、東なんてわかるわけじゃないか。

アリッサ ……。じゃ、夕陽があるところはどっち？

アユム 夕陽があるのは東だろう。(笑)

アリッサ ほらダメだ。

■アユム ノーブル／アタックタイプ 15歳・男

〈体力〉6 〈敏捷〉6 〈知力〉6 〈精神〉6

イメージカラー：黄緑

外見：やさしげな少年

旅に出た理由：一族の風習である元服の旅。朱印帳を手に88カ所を巡る。

お気に入りアイテム：アネッサからもらったハンカチ

■アリッサ ヒーラー／マジックタイプ 15歳・女

〈体力〉6 〈敏捷〉4 〈知力〉6 〈精神〉8

イメージカラー：赤っぽい色

旅に出た理由：アユムの一人旅は心配だからついていく。気分は保護者。

お気に入りアイテム：アユムの兄からもらったヘアバンド

■オイゲンシュピーゲル（ゲンさん）クラフト／テクニクタイプ 19歳・男

〈体力〉8 〈敏捷〉8 〈知力〉4 〈精神〉4

イメージカラー：黄土色

外見：きっぷのいい兄ちゃん

旅に出た理由：アユムとアリッサのつき添い&そろそろ外に出ると家族に追い出された

MEMO：2年前にアネッサに告白してふられ、現在まで引きこもり

お気に入りアイテム：アネッサに渡そうとしていた手ぬぐい

キャラメイクと同時進行で町作りシートも書いてもらったのですが、  
なんかかなりフリーダムなものことができました。  
街づくりシートとはりゅうたま独自のルールで、  
これから立ち寄る街のデザインをプレイヤーに自由にやらしてもらおうというもの。

まず、マスターがいくつかの欄を埋めたシートを作ります。  
そして空欄を、プレイヤーが自由に埋めます。

【街の名前】 エティール  
【街の規模】 中の下  
【代表的な人物】  
【地勢と気候】  
【代表的な建物】  
【特産品】 紙ふうせん  
【街のにおい・音・色】 ふきさらしの風  
【街を脅かすもの】 過疎・街の住民の流出

今回私が作ったのが、上気の内容。  
このシートを出して「自由に書き込んでね」と言ってから2時間後……。  
街作りシートには、なんか色々書き足されておりました。

【街の名前】 エティール  
【街の規模】 中の下  
【代表的な人物】 町長さん レイノルド おヒゲのダンディ シャベる両生類  
【地勢と気候】 温かい 夜はやや肌寒いが……厳しくない  
森林があります。大きな川もあります。きれいな湖もあります。  
しかし田舎。『「何もない」があるのよ』 長寿が多い。  
【代表的な建物】 日立の木(この木なんの木)  
森の中にぽっかりと広場があります。そこに湖と日立の木が！  
公共浴場っぽい温泉 シャベる両生類のおやしる →湖にある →クサノ一様  
【特産品】 紙ふうせん 砂鉄 両生類  
【街のにおい・音・色】 ふきさらしの風  
【街を脅かすもの】 過疎・街の住民の流出 松食い虫みたいな虫が森を…！！  
火事怖い超怖い！



……。

……しゃ、しゃべる両生類……??? 何がどうしてこうなった!?

**アユム** (両生類の項目を指しつつ) ひどいものを書いているっ。(笑)

**ゲン** 特産品だからいいじゃないか。

**アリッサ** どういう特産なんでしょう。

**GM** 特産品って事は売るのがかな……。

**アリッサ** すげえ世界観になった。思いつきで言うと本当になるっていうのがすごいねえ。

**GM** しゃべる両生類はありがたい主様で、しゃべらない両生類は町の名産品としておいしく食べられる的なのでいいの?

**ゲン** 成長するとしゃべるんだ。

**GM** じゃ、稚魚のうちなら食べ放題なんですね。この湖は恵みの湖。湖で獲れた両生類をそのまま食べられます。

**アリッサ** ばりばり。

ええと、この設定の都市に今回行くことになるので、

私はこれから、この設定を折り込んで話を組み立てていかなきゃならないのです。

ど、どうしよう。

——とりあえず開始して、話を進めながら考えよう(←行き当たりばったり)

りゅうたまでは、1日の始まりに“コンディション・チェック”というものをやり、

その日の体調を決めます。

コンディション・チェックの次は移動チェック、方向チェックと続きます。

**GM** コンディション・チェックは〈体力〉+〈精神力〉の判定です。出た数字をキャラクターの該当欄に○つけてください。

**ゲン** (ころころ) えっとねえ、11だ。

**GM** お。11の人は絶好調です。

**アリッサ** (ころころ) 10。

**GM** おお。10の人も絶好調です。みんな調子いいなー。

**アユム** たあっ。(ころころ) 9。

**GM** 10以上は調子がいいです。どれか能力値の1つのダイスを1個上げることができます。

**アユム** お前さんってもう上げるのは〈知力〉か〈精神〉しかないんだな。

**GM** あ、いや、8の上は10。10の上が12。——4の下が2。

**アリッサ** あー。ダイスが変わるのか。なるほどね。

**GM** 次、目的地まで無事につけるかどうか移動チェックで判定します。これに失敗すると体力使いすぎたりコケたりします。〈体力〉+〈敏捷力〉の判定で、目標値は草原だ

から、6かな。

コンディション・チェック→移動チェック→方向チェックという判定の流れが、リゅうたまでは基本的な判定となります。これで目的地に行くという仕組み。移動チェックはゲンさんだけが失敗。失敗するとHPが1/2になります。

**ゲン** 疲れたでやんす。しばし休むでやんす～。

**アユム** ゲンさんも2年間も引きこもっていたら、歩くのも苦手になるよ。

**GM** でこぼこの道に弱いんだね。

**ゲン** 上半身はよく使っていたのに、下半身が全くでやんす。

**アユム** 村の相撲大会で兄上に唯一土をつけたのは、ゲンさんだけなのに。

**ゲン** あれからずっと座っていたからな。

**アリッサ** 言ってやんな。言ってやんな。

アユムが振った方向チェックも無事に成功。

**アユム** えーっと確か、日が今こっちを向いていて、日の出がこっちだから、東はあっちですね！

**アリッサ** 珍しい。合っている。

初日は何事もなく、無事にエティールの街に到着です。

ええと……(街作りシートを見つつ)…… “しゃべる両生類”、“森”、“湖”、“お社”ですか。

さて、どこから切り込もうか。

**GM** では、夕方過ぎぐらいに着きました。えっとですね……。大きな湖が中央にあって、街の外側には水車があって、その間に森があって？

**アユム** 鎮守の森だね。

**アリッサ** 日立の木というかトトロの木みたいなのがどーんとあるわけだ。ご神木ですね。

**GM** あなた方は来たことがない街ですが、お兄ちゃんやお姉ちゃんから話は聞いているんじゃないかと思います。

**アユム** 兄上も当然ここに来ているから。

**ゲン** ……俺は聞いちゃいねえだろうな。

**アリッサ** 引きこもっていたもんね。(笑)

**GM** お兄ちゃんとお姉ちゃんの話以上にさびれているようです。で、彼らは泊まらずすりぬけていったようですが、あなた方は今ちょうど夕方なので、ここでお宿を取らなきゃかなという感じです。

昔はこの辺り一帯が結構大きな領土だったようで、だから神社とかがちゃんと残っているんだね。

アリッサ なるほどね。時代が移っちゃったんだね。

GM で、ですね。風車も回っていないようです。あるんだけど、羽が回っていない。

アユム 風が止んでいる？

GM 風は普通あるんだけど。で、街に入ってすぐは門前町みたいな感じなのですが、想像以上にさびれている。夕方になったばかりなのに閉まっている店ばかり。

アユム まず、宿を探さないかね。

ゲン 温泉につかって、疲れを癒すでやんすー。

アリッサ 温泉浴場は安いはずだよ。

GM と、あなた方が歩いている道につながる小路から、たたたっ、という軽い足音が聞こえてきて、その向こうから「待て——っ」という声が。

ゲン ひい、オイラは何もやっていないでやんすー。アリッサ勘弁でやんすー。

アユム 2人して頭抱える。ひいいい（笑）

GM ではゲンさんに何かがどむっとぶつかって、「ご、ごめんニャッ」と声がして、そのままたたと……。

アリッサ （即座に）にゃーをがしっ。

GM え。えええ。（←アリッサの反応が早すぎて反応しきれていない）……で、では、判定しましょう。〈体力〉＋〈敏捷〉で判定してください。こっちも逃げます。

アリッサ だよねえ。（ころころ）7。

GM （ころころ）5。

アリッサ がしっ。手が早い。

アユム さすが女ジャイアンだ。

アリッサ ……おかしいな。

GM 「にゃーにゃーにゃーっ！」と、捕まったのはですね、この世界では……あれ、挿絵どこかな。（ルールブックを漁りつつ）——これ。この世界の知的種族、ネコゴブリン。こいつは一回り小さいコネコゴブリンですね。直立歩行の猫で、頭の上にツボを抱えて大事なものを溜め込んでいる。

ゲン どのカレークックだよ。

GM 語尾はごぶにゃー。（笑）

アリッサ ごぶにゃー。（笑）

GM 「ボクは悪いことをしていないゴブニャー。離すニャー。離すニャー。関係ないゴブニャー！」（笑）

アリッサ （妙に凄味のある声で）じゃー、なんで追われているのかなー？

ゲン こわいこわいこわいこわい。オイラは道ばたに積んであった消火用の桶の中に突っ込んでいる。

アリッサ そんなにトラウマかい。

GM 後ろからごっつい感じの男の人が、片手にフライパンを持って追っかけてくる。

アリッサ どうかしたんですか、この子？

GM 「どうしたもこうしたも。おいお前、卵出せ卵。今日の夕飯っ！」と言われると、「ゴブニャー……」とツボのふちをギュッと押さえながらじたばた。

アリッサ ぱこっ。(取り上げ)

GM 「あああっ！」――産みたて卵が3個ばかりツボに入っている。

アリッサ ――この卵はどうしたの？

GM 「もっ……もうじき母ちゃんが、次の弟たちを産むニャ」

アユム ぶわっ(´;ω;`)

GM 「母ちゃん、弱っているニャ。精つけさせてあげるゴブニャー……」

アユム そこのフライパンの人は？

GM 男性は「うちだって、足腰立たなくなってきたばあちゃんにいいモン食べさせてやりたいよ。ようやく産んだ卵なんだぞ」

アユム ――こうしませんか。卵を元々持っていらっしゃるあなたが2個を持ち、こちらの子ゴブリンが1個を持ち帰るとするのは。

GM 「それは、俺が損をするだけじゃないか？」

アユム いやいや、そこに俺が……卵って1個いくらくらいでしょうね。

GM どうかなあ。1Gもあれば十分だと思います。

アユム じゃ、1Gを出して、何とかこれでひとつ。

GM 「いいのかいそれで。あんたたちには何の関係もない話だろう」

アユム ぶつかった私が一時損をしたことでよろしいんじゃないかと。

GM ……三方一両損にすらなっていないような気がする……。 (笑)

アユム 多分、一方的に俺の損。でもしょうがないんですよ。アリッサが捕まえちゃったんだもん。

アリッサ え。お。え？ (笑)

アユム アリッサが何かしたら、ボクが損をするのは当たり前ですよ。 (笑)

GM えーと。親父さんが戸惑ったような顔であなたを見る。

アリッサ 満面の笑みでにっこり。大丈夫です。お金持ちなんですカレ。 (笑)

GM 「そ、そういうことなら……」

アユム 実家は金持っているけど、俺持っていないもん。

GM おじさんは卵を2個だけ回収すると、コネコゴブリンに「さっさと行け」と。

アリッサ ちゃんとおじさんに盗ってごめんなさいって言うんだよ。

GM 「ええー。あやまりたくなんかなー」

アリッサ あァ？ (←超怖い)

GM 「――ごめんなさい」 (笑)

アリッサ 私に向かって言うんじゃないで、おじさんに向かって言おうね。

GM 「ご、ごちそうになっていますっ。いいいつもありがとうございますっ！」「いつもいつも卵がなくなっているのはお前かッ！」「は、いえっ、赤いのがとってもおいしい

ですっ」(笑)

ゲン ふう……波瀾万丈でやんす。

## SCENE 2

---

コネコゴ布林を追いかけていたおじさんは、宿屋のご主人でした。  
ここで知り合ったのも何かの縁と、おじさんの宿屋に泊まることに。  
おじさんは卵焼きや爬虫類料理で歓待してくれますが、  
昔はもっと街も豊かで、旅人も大勢立ち寄っていたのになあ……という懐古話に。

**GM** この街にはですね、インスクトの木、という大きな木があります。そこにはかつてスパ  
イアという実が成っていたそうです。

**アリッサ** ……スパイア……。 (旅日記に書いている)

**GM** スパイアの実がなくなっていて、町の名産だった薬が作れなくなりまして。以前はここで、  
滋養の薬と温泉とで旅の疲れを癒す旅人も多かったんですが。今はもう。

**アリッサ** インスパイア・ザ・ネクスト？ (笑)

**アユム** 世界心しぎ発見。両生類が一番エライ人はクサノーさんだよ、きっと。

**アリッサ** クサノーさん！

**アユム** クサノーさんだ！ ……思えば思うほどひどい町だなあ。 (笑)

**GM** 誰のせいですか。 (街づくりシートにクサノーさんを書き足しつつ)

**アリッサ** そういえばおっちゃん。町の周りの風車ってなんで回っていないの。こんなに風があ  
るのに。

**GM** 歯車が1個ないからだそうです。あれは古代技術による風車なんだけど、これが回らな  
くなった頃から、スパイアの実が実らなくなった。

**アリッサ** うん。

**GM** 戦乱のさなかに奪い合いになって、誰かが抜いちゃったらしいですね。

**アリッサ** なんという。

**GM** 代わりに歯車を作ってハメるんだけど、すぐ壊れちゃうんですよ。これが回ればまた実  
がなるかも、と日々挑戦している職人さんもいるのですが、うまくいかない。

ところで、宿屋は一晩5G。公衆浴場は2Gです。

この値段は結構シビアで、初期状態で10Gも持っていない人はすぐに枯渴します。

特にゲンさんは、無理をして「壊れくださいコンパス (購入後に自分で修理)」を  
買っていたため、お財布の中が心許ない、どころか既にからっぽ状態。 (笑)

宿代だけは何とか払ったものの、もはや入浴代すらありません。

**ゲン** 入れないでやんす。オイラからっけつでやんす。

**アユム** 俺が払っておくか。公衆浴場って24時間かな？

**GM** 朝方は閉まっているけど、今ならやっています。

**ゲン** 行ってこようか。

GM かぼーん。

ゲン ふう、生き返るでやんす。

アユム サービスシーンなのに、男2人。（笑）

GM 横には一緒にくつろいでいる、ももも〜と鳴く両生類。温かいところにもいるようですね。

ゲン 冷水がわいてある桶に、虫がわからいなように番をしているんだ。あと、松明に近づく虫を捕っているんだ。

アユム ゲンさんゲンさーん。広いからできる先祖伝来の一発芸。どぎえもん。

ゲン おー。ぱちぱちぱち。

アリッサ えーと、ここ露天かな。石ねえかなー。

アユム 2発目いく2発目いくー。スケキヨ。顔にタオルばたっ。

ゲン おー、見事だ。じゃ、あっしも究極の一発芸いくでやんすよー。人間太鼓ー。

アリッサ （何かを投げる動作と共に）しゃこっ。

GM ケロヨンが飛んでいきます。ひゅーっ。（笑）

ゲン ちなみにこれ、写真撮られたっけな。

アユム さすがでござるー、って言っている最中に、飛んできてぶっ倒れる。げふん。（笑）

ゲン ちょ、直撃でやんすー。

アリッサ おーや、いいところに石がある。次は誰だー。石鹸ないから石でごん。

アユム やーん、そんな新婚さんみたいなのやーん。

ゲン せ、石鹸ならあるでやんすよごブッ。（笑）

――数分後、飛来してきた石にぶつかった土左衛門が2人ぶかーっと。  
何をしているんだ、あんたらは。

GM そんな中、あなた方がお風呂に入っていると、冷たい水を張った桶に入っていた両生類が、おもむろに「お前たち、旅人ダロ？」と。（笑）

アユム 何々家の領地から参りました。

GM しばらくじーっと見てから、「よい目をしておる」

アリッサ ……。

ゲン よい目にはあっていないでやんすけどねえ。

GM 「お主らなら認められるかもしれん。明日、お社の奥に行くがいい」

ゲン わっかりやした。でもあっしにやれることなんて、せいぜい修理品くらいですぜ。

GM あとはもう、モ` ――――っつしか。

そんなこんなで、明日はお社へ行くことに。

シナリオの本筋に行かずとも十分楽しそうですが、いちおう話も進めるよー！





## SCENE 3

---

朝食は両生類の唐揚げとスープ（笑）

早速お社に向かいます。

GM 奥に行こうとすると「すみません、そちらの方は一般の方は立ち入り禁止になっておりまして」

アユム あの、なにかこれこれこんな感じの、えーとトノサマガエルっぽい人に来てって言われたんですけど。

アリッサ 風呂場で。

GM 「は、はあ。……え、風呂って昨日のxx公衆浴場ですか」

アユム はい。

GM なんか後ろでぼそぼそと、『あの人、あの人たちよ。土左衛門とかスケキヨとか……にぎやかにしていた……』（笑）

アユム びくーん。

ゲン にぎやかにしていたのは……うーん。

アユム 全部僕たちが悪いんです。すみませんでした。

GM しばらく待つと、目と目が離れた、顔の平たい宮司さんが出てきます。「こちらにどうぞ」と。

アユム どうも、失礼しまーす。

GM 境内の奥に入っていくと、先には下りの階段があって、地下の地底湖のほとりに案内されます。

アユム ……なんだろう。すごい話的にはアレなんだけどさ、俺らのせいでダイナシ感が漂うんだよね。（笑）

アリッサ マスターすげえ頑張っているんだけどさ。

アユム 話の盛り上がりっぷりがたまらないよね。

GM で、案内されるのは、地底湖の中央にある巨大なトノサマガエルの石像のところ。

アユム あれだね、鳥獣戯画の相撲取ってるカエルだよ。（笑）

GM 宮司さんは「私はこれで失礼します」と、戸を閉める。ぱた。——そうすると、ちゃぷ、って音がして目の前の湖に小さアカガエルが……30匹ぐらい。

アリッサ わあ。

アユム 体育座りして見ている。

GM カエルたちが「この人だって」「この人たちだって」「わかるのかな」「迷わずに行けるのかな」とか言いながら、じーっとあなたたちを見ている。

ゲン うーん、なかなか見る目があるでやんすね。

アリッサ けるける。

GM 「もうちょっと」「もうちょっと」「近くに寄ってこないかい？」

アユム でも危険だし。

アリッサ じゃ、アユムを前にポンと。で、その後ろからちょこちょこっと。

GM では一匹がぴょんと飛んで、アユムの胸にぴこっとくつつく。

アユム ……おはようございます。本日お招きに上がりました、えー、まだ家の名前を名乗ることとは許されておられません。当年取って15歳、アユムと申します。

アリッサ 便利だなあ、日本語って。

GM アマカエルはけるけると、「お呼び立てして申し訳ない」と。

アユム いえいえ。私のような者をお呼びいただけるだけでも光栄の至りでございます。

GM 「まあそれはその通りなのですが」

アユム ああこんちくしょう。（笑）

GM 「この町から失われて久しい風車の歯車ですが、何故失われたかはお存じですか」

アユム 聞いた話によると、戦争によって奪われたとか。

GM 「そう。あれはひどい戦争だった。ですが、奪われたわけではないのです。その証拠に、あの歯車は今クサノ様の元に」

アリッサ クサノ様！

アユム ここの森神様じゃなかったんでしょうかね。

GM 「クサノ様は、ここにはおられません。街の向こうにある森にいらっしゃいます。…  
…クサノ様は、いつかその歯車を街に戻したいと考えておられます」

アリッサ はあ。

GM 「お願いががございます。クサノ様の元に、歯車を受け取りに行ってもらえますか」

アユム なるほど。お話は大変よくわかりました。しかしこういってはなんですが、私たちに決定権はありません。アリッサです！（笑）

アリッサ じゃ、アユムの肩をポンと叩いて。——これはあんたの元服の旅なんだから、あんたが決めたっていいんだよ。

アユム え、本当にいいんですか。

アリッサ いいよ。あんたはどうしたいの？

アユム 後で、あの時行った言わないって脅さないんですか。

アリッサ そんなことはしないよ。

アユム 大丈夫？ あの時みたいに3日3晩働かされるとかそんなことはないんだよね。

アリッサ そんなことは……もう年だからね。

アユム あ、じゃ、すいませんやり……。

アリッサ ……（にっこり）。

アユム ……ます。（笑）

GM 「ありがとうございます」

アリッサ そうだよな、やっぱりそうなるよね、と笑って。

アユム 困っている人を助けるのが旅の目的のようなものじゃないですか。自分ができることが人のためになるんだから、いいことじゃないですか。

アリッサ いい子に育った、よかったよかった。……やらないっていったらそれなりにこう。

GM カエルはひとつだけ注記を。「繰り返しになりますが、歯車はクサノ様の元にございます。いつかクサノ様は歯車をこの街に返したいと思っています」

アユム はい。

GM 「そして、私たちの頼んだことは、クサノ様の元に行ってくださいということです。そこからどうするかはお任せいたします」

アユム えーとそれは、行ったら必ずもらえとか……。

GM （急にただのカエルモードになって）ケロロロッ、ケロロロッ。（笑）

アユム こんちくしょー————っ！（笑）

アユム じゃ、こういう話をされたんですが何かご存じありませんかー、と。

GM 両目の離れた神官は、「そんな伝説もあったようですが、全て失われてしましまして」と。

アユム あー、そうですか。

GM 「ですが、クサノ様のおられる森は裏手に連なる山のひとつ、ここから2日の距離にあるトモエ山だと言われています」

ゲン ……あっしの保存食は2日分しかないでやんす。

GM 「川をさかのぼっていけば、大きく迷うことはないでしょう。トモエ山の八合目に大きな柳の木があります。まずはそこを目指しなされ」

アユム 黒柳様だー！

ゲン 柳って、そんな高いところに生えたっけ？

GM 「上部がとても大きい、特別な形をしていると聞いています」（笑）

というわけで、まずは旅支度。

所持金が心許ないので、旅装の類を追加することはできないのですが、

往復で最短4日の移動なので、一週間ぶんの食料と水を持っていくことにしました。

荷運び動物であるシロクマのルイエノールには、水を詰めたタルを運んでもらいます。

ゲン 買えないでやんす……。

アユム はいはいはい。これだからゲンさんはもう。

GM 食料は一食につき価格10、サイズは1。水はタル代や水袋代はかかりますが、水自体は無料です。

ゲン オイラはまずい保存食でいいでやんすよ。砕けたクラッカーとか。

GM あ、「まずい保存食」ってアイテムもあるのね。5Gで買えますねー。コンディション3以下の日に食べると、HPが半分になる。

アユム まずい食料と混ぜて、さ、どっちがどうかわからないから、食うときにダイスを振ると。

GM ムダにロシアンだなー。

アリッサ 君ら2人でやってな。

アユム アリッサ様にまずい食料食べさせようなんて、そんな命知らずな真似しませんよ。

ゲン そうでやんすよ。命惜しいもん。

アユム 俺たちまずい食料食ってうわーんって泣くだけで済むけど、アリッサさんまわりに当たるもんね。

アリッサ どういうことかね？

アユム 普通は体調が悪い時はまずいのは避けるんだけど、それを気にせず混ぜちゃっているからどっちかわからないと。

GM 見た目の違いは普通わかるものですが、つかないという前提ですね？

アユム つかないですよ、我々には。

GM OK。――「普通の保存食」が9個に、「まずい保存食」のが5個ね？ じゃ、私がそれぞれの食料に14まで番号を振って、それぞれにうまいかまずいかを適当に書いておきます。食べる時に、何番を食べるか言ってください。（笑）

ゲン ギャンブルやなあ！

アユム 楽しくて仕方ないだろう！ .....何このバカな小学生みたいな。（笑）

【保存食のうちわけ】

1 普通	6 普通	11 普通
2 まずい	7 普通	12 普通
3 普通	8 普通	13 まずい
4 普通	9 普通	14 まずい
5 まずい	10 まずい	

というわけで、適当に番号を割り振りました。この内容はプレイヤーにはナイショです。

準備万端整えて、翌日に出発！

と思いきや、この日の天気はどしゃぶり。

GM わー……。ど、どうしよう。今日は出発しないこともできるよ。

アユム このまま旅に出るとどうなるかを教えてもらえないかな。

GM 森での移動チェックの目標値は本来10なのですが、雨で+3になります。

アユム 無理だね。寝よう。

そんなわけで、出発が1日延びました。

食料や水の消費はありませんが、宿屋にもう一泊するので、結局余計な出費が。

アユム 2人分だから.....残り9G。俺ももう一泊は無理。

ゲン ああ、私の命がここで途切れるかも知れない……。

アリッサ あの、あたしまだ50Gあるから、いつでも言っていいよ。ないならないと言いなさいよ。  
。

結局、この日はゲンさんの〈修理〉スキルを活かし、壊れた鉄鍋修理をしていました。  
臨時収入の10Gを得た3人ですが、……明日には出発できるといいね。

## SCENE 4

---

この日は曇り、満を持しての出発日です。

コンディション・チェックの結果はまずまずで、ようやくりゅうたまらしく、旅にGO！

**GM** そういえば、今回は1ゾロポイントがさっぱり入っていないんだね。

**アユム** 何ですか、1ゾロポイントって。

**GM** 誰かが1ゾロを出すと、全員に仲良く1点ずつ入るポイント。これを1点使うと達成値を1足すことができるんです。

**アユム** 誰か1ゾロ出せや。

**ゲン** (ウィルカに) 頼むぞ。

**アリッサ** はい？

今日の旅歩き判定の目標値は、[森]で10に[曇り]+1で、合計11。

実は、1Lvの旅人が行く場所にしては、難易度は高めです。

移動判定はアリッサだけ失敗、あとの2人は成功。アユムはクリティカル。

順調順調、これなら何とかなる。

次いで方向チェックです。担当はゲンさん。大枚はたいて買ったコンパスもあるし。

**アリッサ** じゃ、ゲンちゃんに任せます。そこにアロー・コンパスー。

**ゲン** コンパス持っているよ。

**アリッサ** いや、これはアロー・コンパスっていう魔法。更にプラスできる。

**GM** 魔法は〈知力〉+〈精神〉で1ゾロが出なければ発動します。

**アユム** 1ゾロー。

**ゲン** そろそろ出せー。

**アユム** アリッサはやればできる子だよ。

**アリッサ** 何げにプレッシャーをかけるんじゃないよあんたたち。(ころころ) あぷねー！

**GM** あと、道のはじっこに、猫しっぽがひょこっと覗いていたり。

**アリッサ** おや。

**ゲン** 食料でやんすー。

**GM** コネコゴブリンがおずおずと出てきて、「……弟たち、無事に産まれたにゃ」

**アユム** おめでとう。これから君は良き兄となってその弟たちを導けばいいんだよ。

**GM** 「クサノーさんはそこをまっすぐ行った先にゃ」と、ぺこっと頭を下げてコネコゴブリンはいなくなる。方向チェックの判定に+1。

**ゲン** コネコゴブリンに、その辺の草を編んだ笠を作ってやってもよろしいですか？

**GM** どうぞー。

**アユム** これできっと君は1ゾロを出すんだ。

ゲン (ころころ) 11か。

アリッサ つるつると。

GM 目を輝かせて帽子をかぶって、無闇に感動している。で、尊敬の眼差しであなたを見上げて、ぺこぺこ頭をさげている。

ゲン おっかさんはしばらく動けないんだろ。その分お前さんが動かなきゃダメだぞ。頑張るでやんすよ。

GM 「うん、うん」とうなずいて、振り返って頭下げるのを何回も繰り返しながら、草むらの向こうに去っていく。

アリッサ 助けて良かった。

アユム なんて萌えキャラ。あー、もうここに住むか。(笑)

アリッサ 失恋の傷を癒すのはここしかない、みたいな。

アユム 15代目の初めての脱落者。

+3の修正をつけて判定したゲンさん、方向チェックは無事に成功です。

さて。とはいえ、順調にできてく歩いている……だけの旅ではツマラナイ。よね？

イベント判定ー(ころころ)。あ、イベント発動ー。

GM 目前に未知のクリーチャーがいます。

アユム ……その未知のクリーチャーは、マスター視点で可愛いですか？

GM (ちょっと考えてから) はい。

アユム 危険だ！

ゲン さあみんな、他の道を探すでやんす！

GM 大ぶりの卵に手足が生えていまして、目鼻はありません。てんでに雨をよけたりくつろいだり。3個がウロウロしています。

アユム ハンプティ・ダンプティ。

ゲン シルクハットとかかぶっていないのか。

GM 〈知力〉+〈知力〉で4以上出れば、何者か知っています。

アユム (ころころ) 8。

GM こいつは「あるくたまご」といいます。

アリッサ まんまやん。

GM ラッキークリーチャーとして知られています。HPをちょうど0にして叩き壊すと、いいことがあるよー。

アユム 食べるとおいしいよ。

GM はい、食べるとおいしいです。

アリッサ (イラストを描いて) こんな感じ？(笑)

GM だ……だいたい正しい。

アリッサ ハイヒールなんかはかせちゃったら大変だ。

ゲン いっそ網タイツ穿かせろよ。

**アユム** 急にタンノくんになったじゃないか！（笑）

ということで、戦闘突入。

戦闘中に使う「オブジェクト」は、本当はプレイヤーから出してもらおうのですが、今回は説明の手間を省いて、GMがテキストに書きました。

イニシアチブは ゲンさん11、アユムとあるくたまご9、アリッサ5

**GM** 行動順はイニシアチブで決まります。イニシアチブの数字は戦闘中は固定です。イニシアチブの手番の早い人から先に動きます。命中判定をして、相手のイニシアチブの数字より高い数字が出たら攻撃が命中します。

**アユム** たまごは9。意外とこれって……微妙な数字だね。

**GM** で、オブジェクトというものがあまして、これを使うと命中に+1することができます。

**ゲン** （オブジェクトに目を通しつつ）『キノコ』ってどうするんすか。……って、どうにかすればいいんだな。

**GM** 1ゾロ判定や集中でも、命中判定は増やせます。ダメージは増やせないけどね。

**ゲン** フロントエリア同士なら届くんだね？ じゃ、まずはこの1番を叩き割るか。いくぜ。（ころころ）12。

**GM** 当たりまーす。ダメージは？

**ゲン** 〈体力〉+1だね。（ころころ）3点でした。

**GM** はい。まだ生きているよ。ぴきぴきっとヒビが入った。

卵のHPは4点。ぴったり入るとラッキーです。

3点というのはなかなかいいペースなのですが、ここでアユムの渾身の一撃が炸裂！

ダメージ6点！

**GM** ばしゅっ。完全に割れました。黄身もぐちゃぐちゃ。

**ゲン** せめて黄身くらいは残しておこうよー。

**GM** のこり2個の卵の攻撃いきまーす。まずゲンさんに（ころころ）ぴったり当たる。ダメージ5点。

**アユム** 意外と痛いぞ、5点。ちなみに鎧は着ていない。

**GM** （ころころ）アユムにもぴったり当たり。ダメージ6。強いな卵！

**ゲン** 2d8は痛いよね。

**GM** これが、たまたま移動判定に失敗していてHPが半分になっていたりすると、すぐに死んじゃうんですねー。

**アユム** あっぶねええええ。

ちなみにゲンさんのHPは16点、アユムのHPは12点です。

卵の攻撃ダメージは1d6なので、戦闘が長引くとかなりヤバいのですが、

2ラウンド目の攻撃は、ゲンさんもアユムも外れ。



対して卵の攻撃は両方とも命中。ゲンさんは残りHP10点、アユムは残りHP5点。  
……りゅうたまの戦闘って大味というか、あっという間に死にかけますね。

**アユム** やーばいよ！ 死にかけているよ！

**GM** ふふふー。逃げてもいいよ？ 卵は追う気配はない。踊っている。

**アリッサ** ひよいこらひよいこら。

**アユム** くやしーなああ。

**ゲン** やばいでやんす。奴らはベリーダンスを踊っているでやんす。

**GM** 次、アリッサですよ。

**アリッサ** しょうがないなあ。治してやるか。

**アユム** でもそれだと、フロントエリアに入ることになるよ。

**アリッサ** ……。逃げようよー。逃げようよー。

**ゲン** やれそうな気もするんだけどなあ……。

**GM** まあ、オブジェクト使っていれば、さっきのは当たっていましたね。

**アユム** ……………次からそうしようか。

結論としては戦闘続行。アリッサが前に出てきて、このラウンドは終わりです。  
卵としても、当たりさえすれば結構簡単に倒されてしまうので、  
『どっちが先にいい出目を出すか』で、戦局はころころ変わるんですよー。

**ゲン** おりゃっ。（ころころ）当たった。ダメージいくぜ。（ころころ）6点。

**GM** オーバーキルです。どろどろどろ。（笑）

**アユム** オブジェクトを使うよ。華麗に岩を踏み台にして飛び上がる。

**アリッサ** かっこつけたけどダメでした、にならないように。

**アユム** とりゃーっ。（ころころ）8+1。9。

**ゲン** 9は当たるんだろう？

**GM** 当たりますよー。

**アユム** ダメージ、（ころころ）6点。

**GM** オーバーキルですね。3つともドロドロだー。

**アユム** ……この卵の黄身、すすったるか。

2ラウンド目の危機感が嘘のように、3ラウンドで戦闘終了。  
アリッサがアユムを回復しつつ、  
ゲンさんは〈材料加工〉スキルで卵を「たまごのから」という素材に加工します。

**GM** 卵のカラが3つ。売却すると1個1000Gになります。

全員 え—————！？

**GM** ラッキークリーチャーですから。

アリッサ お金持ちじゃん！ どういうこと！？ どういうこと！？（←動揺）

アユム え、でも、さっきの過疎った町で売れるのか！？（←超動揺）

アリッサ えー、なんか申し訳ないよね。もうちょっと大きな町で売らないとね！

GM あと、更に〈材料加工〉で食料ができるわけですが……。

アム・アリッサ かくほ！ かくほ！

こちらの〈材料加工〉判定も成功、食料として食べることができる卵焼きをゲット。

アユム ひゃっほおう！

ゲン ラッキー————！

アユム 逃げなくて良かったじゃんこのラッキーモンスター！ 目の色が変わるぜ俺！！

と、1日目はあるくたまごを3個倒し、実入りも良くて全員ホクホクでした。

——が、野営チェックの方はさほど思わしくなく。

ゲン （ころころ）あ、ごめん。

GM 失敗した時はMPとHPは2点だけ回復。

アリッサ 2点。……2点！ げはあ。

アユム この旅は過酷だ。

アリッサは初日、アロー・コンパスで4点、キュア・タッチで4点、合計8点のMPを使っておりました。

けれど野営チェックに失敗し、MP回復は2点だけだったので、差引でマイナス6点。

現在MPは14点です。まだ余裕はありそうですが、果たしてどうなるかなー。

## SCENE 5

---

そして2日目。天気は今日も雨。

——ちなみに天候はd20を振って決めています。

1~5が晴れ、6~12が曇り、13~18が雨、19~20が豪雨。

晴れる確率の方が、半々よりちょっと多めになっているはずなのですが……。

**アリッサ** 雨きらい。

朝食には昨日のたまごから得た卵焼きを食べつつ、出発です。

移動チェックはアリッサが失敗。昨日の移動チェック&野営チェック失敗と合わせ、

HPが6点まで減少しております。ジリジリと減ってるなー。

そして、方向チェック。今日はアユムが判定するようで。

**アリッサ** MP2しか回復していないんだよね。……今日はアロー・コンパスは勘弁してもらおう

。

**アユム** はいはい。ではコンパスを使って+1。旅装で+1。で、目標値11。

**GM** 集中は使いますか？

**アユム** 集中使ってMPが半分になるくらいなら、失敗した方がいい。(ころころ)7。失敗だね

。

**GM** では、今日じゅうに着くはずが着きませんでした。

……目的地到着は明日になりそうです。

今日は足場の悪いところを通して、〈体力〉+〈敏捷〉の判定をするハメになったり。

**GM** 失敗したら〈ケガ〉がついて、体力のダイスが一段階落ちるところでした。

**アユム** ……実はりゅうたまってファンタジーなふりをして、すごく殺意が高いゲームなんじゃ

。

**ゲン** うん。

**GM** え。旅を楽しむシステムですよー？

**アユム** つまりマスターの殺意が高いと。

どのくらいハードなのがちょうどいいかなーと、旅の難易度を模索中だったりします。

……ちょっと今回は殺意が高すぎたかも、しれません。

今日の野営チェックはサポートをゲンさんがして、判定はアユム。

**アユム** (ころころ)失敗だ。

ゲン ああアユム、そっちにロープを張るでやんす。違うでやんす。その枝じゃないでやんす。ああああ〜。(笑)

GM HPとMPの回復は2点のみ。

アリッサ 2点か……。

アユム すごいなあ俺ら。成功したことねえよ。

……………ちょーっとだけ、難しかったかな……。

3日目に突入です。

アユム コンディション・チェックだけはすごくいいぞ俺。12だよ。

GM (天候判定は曇り) 晴れないなあ。普通に晴れる日もあるはずなんだけど。

アユム 誰のせいだよ。

GM ……ダイス目？

アユム よし、マスターのせいということで。

そして最後の移動チェック。

アユム (ころころ) お、成功。

ゲン (ころころ) 9だと失敗だね。

アリッサ (ころころ) ピンゾロきましたー。

GM おめでとうございます。HPは1/4。

アユム じゃあみんな、1ゾロポイント1点もらおうか。

GM 食料は……ええと、卵焼きはもう食べられないんだね。ゲンさんとアユム、何番の食料食べる？

アユム じゃあ俺、2番。

GM 「まずい保存食」。(笑)

アユム 大丈夫、今は俺は絶好調……っごぼごぼっ。

ゲン オイラは14番をもらおうか。

GM 「まずい保存食」でした。(笑)

ゲン うん、たまにはこういうこともあるでやんすよ。オイラが部屋にいた時、こういうのも食べていたでやんす。

アユム おえっ、ごぼっ、母上のご飯を思い出す。

方向チェックはアユムが担当。

残りは半日ぶんの行程なので、成功すれば午前中に着きます。

目標値は11。

アユム (ころころ) ……8。

全員 ……。

GM ーはい。着いた頃にはとっぷり日も暮れておりました。

アリッサ しゃー———っ！ この方向オンチ———っ！

アユム 方向音痴に任せる奴らが悪いんだろーっ。

アリッサ だって勝手に行っちゃうんでしょ、どんどんどん歩いて行ってさあ！！

アユム 誰も止めないんだからしょうがないじゃないかー。

ゲン コンパスがあるんだから方向指示はちゃんとやっているのに、おかしいでやんすねえ。

アリッサ あたしがこっちが北っていつているのに、なんでそっちに歩くのさ。

アユム は？ 言ったっけそんなの。

GM ……た、旅で気が立っている人たちってこええええ。（笑）

アリッサ あーゆーむーのーせーいーでー。（笑）

アユム すっごいよね、このボンクラっぷり。

アリッサ ひどいなあ。ひどい。ひどいけど楽しい。りゅうたまってこんなゲームでいいんじゃないか。

うん、楽しそうにしているからいいのかなーと思うのですが、

……次回があったら、ここまで失敗続きにならないようにしたいと思います。

## SCENE 6

---

まあ、何はともあれ。

2日間の行程をまる3日かけて到着することができました。

GM ここかな、と思った場所に不自然な形の柳がある。

アリッサ これが.....。

アユム 黒柳様か。

GM そこで〈知力〉＋〈知力〉で判定していただけますか。目標値6。

アリッサ (ころころ) あれ? 出ない。

アユム (ころころ) 8。

GM ではアユムだけは、柳の木の向こうに這って入れるくらいの小穴があって、そこにやや大きめのカエルがいることに気づく。あなたと目があったら、ぴよんと穴の中に入っていた。

アユム すいませんこんばんは。

GM ももももも～、と奥から声が。

アユム クサノ一様のところに来ました。

GM それに呼応するように、もももの声がぴたっとやんで、ずしーん、ずしーん、ずしーんと巨大な爬虫類。

アユム まさかクサノ一様?

GM 爬虫類というか、(沼地の竜の絵を見せて)これは竜に近いかも。

アリッサ ちゆるちゆるだ!

アユム それを黒砂糖と和えて飲むと喉にいいんだよ。

アリッサ 待てい。

GM このりゅうたま世界、精霊が全部竜なんです。山は山の竜、森は森の竜、一一ここにはクサノ一様という竜。

アリッサ クサノ一様、竜だったのか。

GM ただ、竜というにはやや.....カエル面の竜。(笑)

アユム 色々とダイナシだな。(笑)

ゲン 顔が扁平なんだ。

アユム ほこらの衆に言われまして、歯車いただきにきたんですが。

GM 「こんな遠くまで来るのは、さぞかし大変だったでしょう」

アリッサ 物腰がとても柔らかいな、クサノ一さん。さすがだ。

GM 「歯車は、実はこの木の下にあるのですが一一その前に、ここでクエスチョンです。(笑)

エティールの町近隣の町が滅んだのは、何故かは知っていますか？」

アユム .....火事だっけ。

アリッサ え、いくさじゃなかった？

ゲン 木の実を奪い合ったんじゃないっけ。

アユム 木の実を奪い合っていていくさがあって、最終的には火事になって森がこれだけにッ減ってしまったということじゃなかったっけ。

GM (なんか設定が増えているような気もするけど) 「……まあ、いいでしょう」

アユム よかったー。

そもそも、この歯車があるからいくさが起きました。

薬があったせいで人々は殺し合って、多くの方が命をなくしました。

果たしてこの歯車は、人の命を救うものといえるのでしょうか？

もし今歯車を返したとして、町の人たちが再び争いを起こせば、結局町は滅んでしまわないでしょうか。

そんなわけで、私はどうしようかと思っています。

あなた方がこの歯車を持ち帰るといふ気があるのなら、お渡ししましょう。

ですがその前に、それで町の者ではない人、何日か町に滞在するであろう方の意見を聞いてみたいと思ひまして。

アユム ああ、それで天気が荒れて、町から出にくくなっていたんですね。

アリッサ うわあ。

GM ……………まあ、そういうことです。(笑)

ゲン 自分たちが行きやすいから雨が降っていたとか、そういうことでもなかったんですね。

GM 「質問は1つだけしか認められません」(笑)

アリッサ クサノーさんだー！

アユム 私の考えでは、歯車のせいで戦争が起こったのではなく、人が話し合いをしようという気がなかったからいくさは起こったんだと思います。

GM はい。

アユム あればみんなで分ければいいんです。そんだけだと思ひますよね。取る量が足りなかったら、増やす努力をすればいいんですよ。

GM 「では、今、歯車を渡したらそうしてくださるんでしょうか？」

アユム と、なると思ひます。——と、世の中のことがわからないこの少年は言う。

アリッサ ……うん……、いや、そうだね……。歯車は大事だよ。いるもんね。うん。

GM 「では、明日の朝に答えを伺いましょう」と、彼は一旦森の奥に去っていきます。

野営チェックしつつ休憩。判定失敗。

今日もやっぱり、HPとMPともに2点のみ回復ですね……。

アリッサ アユムがなあ、ボコボコしないところを選んでくれればちゃんと寝れたのになあ。なんでこんなところ選んだのー。なんでここちょっと斜めになっているのー。寝袋で寝るとずりずりずりっと下がっていくから、何回も夜中に起きて上に上がってくるんだよ。

アユム そうだねえ、大変だねえ。

アリッサ だから寝れなくてさあ。

アユム ごめんねえ。

ゲン 腰が痛いでやんす。

テントの中で3人は、クサノ様の歯車について話し合います。

アユム 話し合いも何も、何でクサノ様はあんなこと言うんでしょね。昔みたいに食料もなく何もなく、という時代ならば戦争は起こりやすかったでしょうが。

アリッサ うーん……。今はいいけど、また将来的になったらやだね。

アユム 何言っているんですか。そうならないようにこの世の中を良くしていくのが今の我々の世代じゃないですか。

GM では、パーティとしての結論は出しておいてくださいね。（と、一旦離席）

アユム ……普段のプレイヤーだったら、絶対言わないようなセリフだね。（笑）

アリッサ ひいひいってる。中の人がじんましん起こすよー。

アユム なんだよこのいい子。もう、自分で言っていて気持ち悪くてしょうがない。

アリッサ でもそれはね、君がこの子をやるっていったわけだから。

アユム どうするんだよこんないい子で。

アリッサ いいんじゃない？ だってりゅうたまだし。

ゲン 少なくとも、あそこの村長さんには交換条件を持ちかけるのが必要だよな。

アリッサ 歯車もらって、それがどうするかだよね。

ゲン 村長さんにちょっと牽制でもしておきますか。歯車の設置の仕方を実はあっしらか知らなくて、何か争い事が起こったらたたき壊しに来るぞと。

アユム それは村長に言ってもムダなんじゃないかな。

アリッサ 昔はいっぱい生えていたんだよね。ちょっとしかないから、この村のものだけにするとか……あ、そしたら特産品にならないしね。むう。

アユム そんな悩むことないよ。争いが起こらないように、周りの国を説得すればいいだけじゃないですか。――俺たちの仕事じゃないけどと心の中で思う。

――そして、朝。

GM クサノ様かやってきて。「では、回答を見せてもらいましょう」

アユム 迷いのない瞳で言うよ。――ください。

GM 「わかりました。これで間違っていたら、……町ごとボッシュートですよ」（笑）



アユム そんなわけじゃないですかー。

ゲン や、それを招くのも町の人たちの、それこそ身から出た錆。

アリッサ うーん、というか、私は人が過ちを繰り返さないことを信じたいですね。アユムみたいに。

アユム 失敗したら何回もやればいいんですよ。

GM 「わかりました。あなたたちの今のその決断に価値があったことを祈りましょう」

アユム はっはっは。――迷いのない少年って楽だな、ある意味。

アリッサ 15歳だしね。これから薄汚れていくんだよ。

- GM では歯車ですが、この黒柳の根本から地下に入った先にありますので、どうぞ取りに行ってください。
- アユム 了解です。じゃ、行こうかって匍匐前進。
- GM 四つんばいになって頭を下げれば行けます。小柄な人なら膝つかずとも行けるかなという感じです。
- アユム アリッサくらいかな。
- GM クサノーさんが、「しばらく誰も入っていない場所なので、もしかしたら何か住み着いているかもしれませんが、ご健闘をお祈りします」と。
- アリッサ 早く言ってくれればいいのに。
- GM 「では、今日はこの辺で」
- ゲン いや、『それでは、ラストミステリー。歯車、発見！』（笑）
- アリッサ 誰がうまいこと言えと。
- GM しばらく進むと、ぽこっと広がったところに出ます。そこに出る直前で、耳のいい人も悪い人も、等しく音を聞きつけます。——カサカサカサッ。
- アリッサ ゴキ。ゴキか。ゴキか？
- GM どうだろうね。
- ゲン 湿気があるところにいるんだろ。ゲジじゃね？
- GM というわけで、恐れず先に進んでいくと。
- アリッサ 黒柳の穴の中には一体何が。さしずめボクらはミステリー・ハンターですね。
- GM そこにいたのは、人間大サイズの知的種族ゴブローチー—ブラック・ゴブリンとも呼ばれている存在です。
- アユム それはゾロリゾロリと近いものですか。
- GM いや、ぱっと飛ぶことが出来たりとか、間際でぱっと飛んで動けなくしたり。
- アリッサ ご、ゴキブリ？ コックローチとゴキブリ一緒になってないですか。
- GM 別名黒いアレ、またはGと呼称されている、あらゆる人間に嫌われている存在。
- アリッサ 人間大サイズって言った、今。
- GM はい。
- アリッサ わ~~~~~。いや————っ。（笑）
- アユム ミヨーにさ、人に当たってくるよね。
- ゲン 黒は飛ぶらしいね。チャバネは飛ばないらしいと。
- GM 彼らは「俺たちのねぐらを荒らす人間ども緩さねえ！」と叫ぶ。
- アユム しゃべるのか。
- GM 地域種族ですから。
- アユム 歯車取り来ただけなんで、早々に退散するんでなんとか。

GM 「知るか。俺たちの食料となれ！」

アリッサ 人間サイズのが2匹？

GM えっとねえ、人間サイズは2匹なんだけど、ノーマルサイズは周囲に無数にいます。

アリッサ いや————っ。そっちの方がいや————っ。

GM というわけで、オブジェクト欄に『通常サイズのゴキブリの群れ』を強制的に入れます。

アユム おーし、それ、早々に使おうぜ。

GM あとはオブジェクト、1人1つずつあげてください。洞窟の中にありそうなもの。

こけ、石、しょうにゅうせき、ゴキブリ、歯車

GM では歯車は壊れはしないものですが、オブジェクトとして使えるのは1回だけということにします。部屋の中央に意味なく回っている。

イニシアチブ……アユム11、ゲン8、アリッサ2

この時点のHPはアユム12、アリッサ9点、ゲンさん10点という状態でした。

最大値なのはアユムだけ。

ゴブローチの攻撃ダメージはd8+1です。——やばい。殺っちゃうかも。（笑）

せ、せめてパーティのイニシアチブを高めれば……。

アリッサ ねえ、1ゾロだったよ。（笑）

GM 1ゾロポイント皆さんどうぞー。（笑）

アユム 後ろに下がっている。

アリッサ ううううう、あううううう。足がすくんで動けません。女の子だったんだね、アリッサ。

アユム 信じられない、アリッサが可愛く見える。初めてだ。

アリッサ あのね、おっきいのよりその周りのちっちゃいのに引いたんだと思う。

アユム わさーんといいたんだね。

GM ではどうぞー。

アユム （ころころ）6・6。クリティカル。

アリッサ すげえ！ どうして本番になるとチートに入るんだ、君。

アユム 知らないよ！

GM クリティカルはダメージ最大値。

アユム ということは〈体〉+1の最大値なので6+1で7です。

GM 7点でかいなー。ぎゃーっと悲鳴があがり、体節がちぎれ体液が飛び散る。

アリッサ ぎゃ————っ。（←何故か精神ダメージを受けてる）

アユム ふふふふふ。今宵も私の刃はよく冴えているでござる。

ゲン 1番をぶっ叩くでやんす。(ころころ) 10で当たって、ダメージ7。

GM まだ生きているよー。

アリッサ 強いなあ。

アユム 意外と強いね。というか2人ともMAXダメージが出てて、それはそれすごい。

GM あ、ホント。そんなに嫌われているのか。こっちはゲンさんに攻撃いきましょう。がんばるよー。(ころころ) 9。

ゲン 当たるよ。

GM d8+1。(ころころ) 7点ダメージ。

ゲン うおお。俺様大ピンチ。残りHP3!

GM あれ、ゴブローチってもう1回攻撃できるのか。アユムにも攻撃するね。(ころころ) これは当たらない。後ろのヤツは前に出て終わり。

アリッサ 前に出ます! 回復しないと多分やばい。

コケに誘うようにしてアユムの攻撃失敗。

鍾乳石に挟み込むようにして動きを封じて1ゾロポイント使って7点、ゴブローチA死亡。

アリッサ すげー、ゲンちゃんすげー! というかあんたたちつえー!

ゲン へっへっへ、だてに刀鍛冶はやってねえぜ。

GM では、当たりやすい人を優先して2人。

しかしゴブローチ側も黙ってはいませんでした。あっという間にゲンさんのhpは-4。

ゲン 落ちましたよ。-4です。ぜひゅっ。

アユム さよならゲンさん。

GM -[コンディションの値]までいくと死にますが.....?

ゲン 大丈夫だよ。

GM では、アリッサに。(ころころ) 普通に命中ですね。

アリッサ まあ、だってねえ。2だし。

GM (ころころ) 2点。

アリッサ よっしゃあ! よし! 恐れをなしたな。

GM こ、このおなごしょこわい。

アユム アリッサ.....。

アリッサ 回復するよ! キュア・プラス・プラス! はーッ!(ころころ)

GM では、MPを消費して呪文の効果を決めて下さいー。

アリッサ 6点と、精神分が(ころころ) .....12点回復。

ゲン おおお! 8までいった。

アリッサ 私役に立ってる? すごいすごい?

アユム ボク1ゾロポイント使うよ。そして歯車にぶつけるように切るよ。

アリッサ は、歯車が！

GM ゴブローチの体液で穢れちゃうー。

アリッサ 動きが良くなるんじゃないか、グリース入っているし。

アユム (ころころ) 10、OK。ダメージいきまーす。(ころころ) 2点。

アリッサ げふん。

GM 次、ゲンさん。立ち上がって攻撃していいよー。

ゲン じゃ、俺、ひどいことするよ。人非人なことするよ。――通常のゴキを潰して、あ、ごめん、君の父親踏んじゃった、と言って殴るよ。(笑)

アユム ひどい話もあったものだ。

ゲン あれ、それともお兄さんだった？ と言いながら(ころころ) あ、1・1でした。すべった。

アリッサ 天罰？ ねえ天罰？(笑)

ゴキの攻撃、ゲンさんに3点、アリッサに7点。

アリッサ ぱたーん。

GM あれ、そんなにHPはなかったっけ。

アリッサ 私は早々に戦線離脱だよ。私の見ていないところでカッコよく散るがいいよ。

アユムの攻撃、命中、ダメージ7点。

ゲンさんの攻撃、命中。ダメージ8点。

アリッサ アリッサが気絶したとたんに調子が良くなったのは何故。

アユム プレッシャーから解放されたから。

ゲン これでもう誰にも怒られないでやんすー。

ゲンさん9点。気絶。

アユム8点。はずれ。

アユム ……俺とタイマン？ これ、分悪くない？

アリッサ がんばれ！ がんばれ！

ゲン 1ゾロポイントは？

GM 1ゾロポイントと集中も使えます。

アユム えーっと、1ゾロポイントのみです。(ころころ) 10、当たります。ダメージは(ころころ) 5点！

GM それで落ちた。

アリッサ よっしゃあああああ！

GM くう、全滅できるかなーと思ったんですが。って、全滅させたらりゅうたまじゃないか。

アリッサ 全滅に近いけどね。満身創痍だよ、すげー！

アユム そして相変わらず俺は、ラスト戦闘になると強い。

GM では2匹目のゴブローチがつぶれた時に、他にはもうあなたたちに明確な気概を加えるGはいないので、周りにカサカサと去っていく。

アユム 起こすには何かありますか？

GM いや、HPを回復しない限り……。

アユム つまりここで野営？

GM ……。

アリッサ 助けてクサノーサーン。

GM ……そうねえ。そういや私、今回は何も使っていなかったんですね。（と、竜人シートを引っ張り出す）

アユム メグさん？ メグさん、本当は何かしてくれるの。

GM ちんまりサイズの緑のドレスの女性が物陰からひょこっと現れて、「さすがに何もしないのもどうかと思うので……」と言って、2人のHPを0にまで戻して意識を回復させます。

アリッサ ふーっ。

GM それを見たのはアユムだけ。

アユム メグさん、ありがとうございます。初めて見ましたよメグさん、そんなお姿だったんですね。

GM それ言われると、彼女は耳まで真っ赤にして、そのまま去っていきます。

アユム じゃ、皆さんが起きたらボク1人で体育座りをして一方向を見ている。

アリッサ はっ。ゴキブリは？ ゴブローチは？ ……1人でやったの！？

アユム ゲンさんがほとんど殺したようなものですよ。

アリッサ ゲンさんは？

アユム 相打ちー。

アリッサ あ、今起きた。ゲンさんだいじょー、……う、寄るなー。（笑）

ゲン あっしは大丈夫でやんすよ、ほらほらほら

GM そういえばあなたも気絶していた時にすごいことになっているから、服と服の間のひだにカサカサカサとしたものが。

アリッサ ああああああああっ！ 取って取って取って取って取って取って取って！！

アユム さーて、歯車を取らないと。やっべー、歯車がすごいことになっているよー

アリッサ 取って。取って。

アユム はいはーい。ほらほらー。

アリッサ うわあああああああ！ 覚悟はいいかな。いいよね。優しいからパーにしてあげる

。

ゲン こ、こいつを許してやってほしいでやんす。ちゃ、ちゃんと胴体部分はとったでやんす。

アリッサ .....チョコキがいい？（笑）

GM シロクマも一緒になって、『こ、殺しはいかんですよねえさん！』（笑）

アリッサ じゃ、首から手を話して、腕をわしっと取ってパーンとしっぺ。（笑）

GM しばらく跡が残るんですね。

歯車を回収して、外に出て、

GM 帰りは省略しましょう。道も覚えていたし、天気もよかったし。食料と水だけ減らしておいてください。――食料は何番食べます？

アユム 5番

ゲン 13番。

【保存食のうちわけ】

1 普通	6 普通	11 普通
2 まずい	7 普通	12 普通
3 普通	8 普通	13 まずい
4 普通	9 普通	14 まずい
5 まずい	10 まずい	

GM おー、どっちも「まずい保存食」です。これでもう、まずいの4個食べたよ。（笑）

アリッサ すげえ！

アユム あと1個しかねえんだよね、まずいの。

GM （リストをアリッサにこっそり見せつつ）残り、ここにしかないんだよ。あとの全部食べちゃった。（笑）

アリッサ ひどい！ ひどいよ！ ひどいよ！（笑）

アユム 母上の手料理みたいな味がするよ。

ゲン これを食って生きていることを噛みしめろってことでやんすよ。

## ENDING

---

GM では、エティールの町に帰ってきました。相変わらずしなびた町です。

ゲン 町に入る前にだな……。

アリッサ 風呂に入れてくれ。

ゲン いや、町に入る前に、歯車の一件を話さないといけないんじゃないかな。

アユム じゃ、風呂に入る前に我々は社に行かなければいけないね。

アリッサ そうだね……。あーあ。

GM あなたたちは顔パスで奥まで行けますね。神官さんが「おお、ご無事でお戻りになりましたか。だいぶかかっていたようですが」

アリッサ 迷いましたからね。

GM 「天候もひどかったようですからね。あんなに天気の悪い日が続くとは珍しいと、町の者話していたところだったんです」

アリッサ この人雨男なんですよ。

アユム というわけで、歯車です。

GM 「おおお、これは素晴らしい！ あなたたちは町の救世主です。早速大々的に祭りをして、歯車が戻ってきたという布告をして……」

アリッサ いやいやいや！

ゲン やめてください！ ーいいですか。天候が悪かったのは、全て我々のことを試していたらしいのです。今後の、この村の動向ひとつでこの歯車は本当に使えなくなってしまうかもしれないでやんす。

アリッサ クサノーさんは、過去に起こした過ちを繰り返さぬようとおっしゃいました。

GM 「過ち、といたしますと……」

アリッサ 1度この村が滅びかけたのは何がきっかけだったんですか。

GM 「まあ、ネクストの実を取り合ったのは事実ですが、私たちはそんな過ちは2度と繰り返しはしませんよ」

アリッサ ですよ。間違っ場合は街がボッシュートとおっしゃられました。それがどういう意味か、あなたならわかると思います。

GM 「そ、それは週に3度しか使えないという、クサノー様の最大奥義」

アリッサ そうです。東京の芸能事務所の社長に言わせれば覚えていろよと同じ意味です。

GM 「……わかりました。町の者とよく相談して有効に活用したいと思います」

アリッサ (アユムに) ってあんたがいなさいよ、ペしんって。

アユム えーっと……以下同文です。

アリッサ 信じていますとか言ってキラキラした瞳で見ればいいじゃない、というのが中の人の話なんだよね。

アユム ははは、そんなこと言う必要もないじゃないですか。人はそんなに同じ過ちを何度も繰



り返しはしませんよ。きらっ。(笑)

ゲン そんなわけで、クサノ一様の信頼を裏切るようなことだけはどうかご勘弁してください。

GM 「ありがとうございます。ここまでしていただいたあなた方に町では何も……急な話で町のようなものを用意していないのですが」

ゲン ならば、風呂に入りたい。(笑)

GM 「では、町で一番いい浴場、――高貴な来客のための部屋と浴槽を、一晩お貸しいたします」

アリッサ いいんですか。いいんですか!?

GM 「はい。それで体の汚れを……って、すごいにおいですね」

アリッサ だってゴキ、ってううう。女の子には辛いんですううう。

結局3人は、街の人に歯車を渡しました。

この後のエティール街がどうなっていくかは、また別の話ということで……。

アユム いやー、疲れた疲れた。

GM では、今日はいいお宿といい温泉でのびのびと。

アユム これは有名な陣宿。

GM 湯質はあまり変わらないかもしれませんが、貸し切りで掛け流しで、足を伸ばしてひろびろーとしています。

アリッサ ふーー。

GM という感じで無事に旅が終わったね。

アユム でもむしろこれから。

アリッサ 僕たちの旅はこれからです。

ゲン とりあえず、卵のカラを売れるところにいこう。

おわり。

りゅうたまリプレイ 旅空のクエストジョン

<http://p.booklog.jp/book/44599>

著者：沢渡祥子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/swtr/profile>

表紙・本文イラスト：くらげん

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44599>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44599>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.